

総合高校で「見える化」の取組。高校生と協働し「みえるらべる」をPR

総合高校に温室効果ガス削減の「見える化」の取組を働きかけ実現。さらに、同校の生徒と協働で消費者に対して「みえるらべる」をPR。

○ 施策分類

みどりの食料システム戦略（温室効果ガスの削減の「見える化」）

○ きっかけ・背景、課題の把握

総合学科を設置している南陽高校では、農業生産法人の指導を受け、環境にやさしいお米の栽培・販売に授業で取り組んでいたことから、当拠点が訪問し意見交換を行い「温室効果ガス削減『見える化』実証事業※」を紹介。

当拠点から本省へ働きかけてオンライン説明会を開催。その結果、同校が実証事業を活用して、授業で「見える化」に取り組むこととなった。

※温室効果ガスを削減して生産された農産物について、コメ、野菜類、果樹類等の23品目に対象を拡大し、削減率を星の数で表示（見える化）し、販売実証

○ 取組の内容

授業での「見える化」の取組開始後も、当拠点から、温室効果ガス簡易算定シートの入力の方法について指導し「みえるらべる」取得に向けた継続的な支援を実施。取組2年目となる今年度は★3つを獲得。

また、消費者への発信についても協力を求め、大型商業施設のイベントに令和5年から共同で参加。高校生が「みえるらべる」を表示した精米、米粉麺（今年はパックご飯も）を販売する一方で、当拠点はチラシでの説明、「みえるらべる」が学べるクイズ、コメ栽培のVR体験などを提供。当拠点と高校生との協働で、来場者に「みえるらべる」はじめみどり戦略をPRした。

○ 効果・成果、今後の方向性

イベントでは、同校の精米は完売し、当拠点のブースにも大勢の来場者が訪れた。来場者アンケートでは、「『みえるらべる』がついた農産物を購入したい」との回答が98%と非常に高く、高校生との協働でのPR活動の効果が確認された。また、授業やイベントを通じ、生徒の皆さんに温室効果ガス削減や農業への理解が浸透した。高校生の発信力による消費者への波及も期待できる。引き続き同校と協働して「みえるらべる」の情報発信等に取り組む。



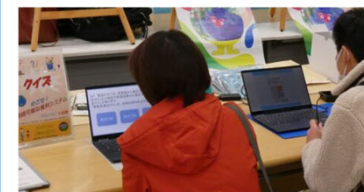
「みえるらべる」の米や加工品を販売する南陽高校の生徒たち



生徒がデザインしたオリジナルパッケージ



今年から販売されたパックご飯



クイズに挑戦する消費者



VR体験する消費者

体制図

